



学び合いをつくる教師のしごと —デザイン・プラクティス・リフレクション—

村瀬公胤
麻布教育研究所
18 Aug. 2010

自己紹介に代えて

- 日本中、世界中の学校で授業研究“Lesson Study”が行われており、協同学習を中心に授業デザインがなされている。
- その根底には、「子どもたちが学び合い、教師どうしが学び合い、学校と地域が学び合う」理念がある。
- 私の仕事は、そのささやかなお手伝い。
 - 牛久市内でも4～8月に、のべ4校
 - 茨城、福島、埼玉、千葉、神奈川、長野、静岡、、、
 - インドネシア(JICAプロジェクト)、ベトナム

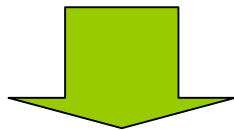
私にとっての「学び合い」

- 「学び合い」流行のいま
 - 「学び合い」は授業方法論なのか
 - 「学び合い」は効率的な学習法なのか
- 「学ぶ」ことは「生きる」ことと同値であり
- 「学ぶ」とは「誰かとともに生きる私」になること
- すべての子が学んでいれば、それが「学び合い」
 - 話し合い、討論、発表は「学び合い」の一側面

変わる社会、変わる学校

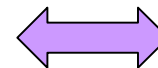
■ 産業構造の変化

- 知識基盤社会
- 智慧と協力、プロジェクトチームスタイル
 - 上意下達ピラミッド型からゆるやかなチーム水平分業型へ



■ 世界的潮流

- 協同学習
- 専門職としての教師
- 授業研究 (Lesson Study)



一斉授業
伝達者としての教師
伝達講習

変わる学力

■ 学力

- 孤独状況設定で「測定される能力」から、
- 具体的で協同的な活動の中で「活かせる能力」へ
 - この社会で、弱い存在、マイノリティの権利を守りながら、ともに生きる自分を発揮できる力＝「タフな学力」
 - 「タフでなければ生きていけない、優しくなければ生きる意味がない」

学び合いを捉えなおす

- 「人間は本性的に、『社会的存在』である」
（アリストテレス「ニコマコス倫理学」）
- 「学ぶ」とは、子どもたちが将来の社会の担い手かつ、改革者である市民へと育つこと
- であるならば、「学び」とは根源的に協同の営み、すなわち「学び合い」であるほかない
- それを実現する
「デザイナープラクティスーリフレクション」
という教育の活動

「学び合い」の中で育つ

■ 体育の授業から

デザイン (design)

- 「学び合い」の脚本 (進行プラン) を書くことではない
- 必要なのは、「学び合い」が生まれる場の設計であり、準備である
 - 全ての子が課題にアクセスできる
 - 全ての子が自分の学びを追究できる
 - (cf. ユニバーサルデザイン)

デザインリソースとしての 学習指導要領

■ E ボール運動（「学習指導要領 平成20年3月 小学校体育第5学年及び第6学年」より）

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。
 - (ア)ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすること。
 - (イ)ネット型では、(略)
 - (ウ)ベースボール型では、(略)
- (2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。

実践 (practice)

■ ぶれない軸と、即興的対応

- バスケットボール

- (ア)ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすること。

- 中学社会科「新聞紙条例」

- 近代国民国家の成立：軍隊・警察・学校

■ 広さではなく、深さを求める

- 活動的

- 協同的

- 探究的

■ 結果的に、「学び合い」になる

省察 (reflection)

- では、実践をどうふりかえるか
 - 評価したり、優劣をつけるところではない
 - 唯一の正解を求めるところでもない
- リフレクションとは、
困難を、問題を分かち合い (sharing)
学び合う場である

授業を解釈する営み

■ 算数の授業から

省察 (reflection)

- 困難を、問題を分かち合い (sharing)、学び合うために
 - 「私は何を学んだか」で語る
 - 高さを競うのではなく、深さを味わう
 - 授業改善はその一側面
 - 見識が深まり、感じる心が繊細になる
- その人のよさを認める
 - 子どもも、教師も
- 多様性を認め合う (多様性を愉しむ) 場の創造

授業を公開し合うこと

- 授業者ではない視点に立つ
- 子どもたちの横に寄り添う
- 複数の視点を知る

- 専門職として同僚と支え合う

学び合いを育む教員

- 学び続ける教員
- 学び合える教員
- Professionalの教員
 - Profess（自らの使命の告白）
民主的で活力のある社会のために、
 - Philosophy（拠って立つ哲学）
人が学び育つことを見守る、
 - Pride（専門職の矜持）
仕事そのものに喜びを見出す。

参考文献

- 福井大学教育地域科学部附属中学校研究会 著 (2009-10) 『シリーズ 学びを拓く《探究するコミュニティ》』(全6巻), エクシート.
- 森敏昭・秋田喜代美編著 (2008) 『教育心理学キーワード』, 有斐閣.
- 津守真 (1997) 『保育者の地平: 私的体験から普遍に向けて』, ミネルヴァ書房.
- ヴァン・マーネン (2003) 『教育のトーン』, 岡崎美智子ほか訳, ゆみる出版
- 村瀬公胤 (2007) 「授業研究の現在」, 『教育学研究』, 第74巻, 第1号, pp.41-48. <http://ci.nii.ac.jp/naid/110006277236>
- Strike, K. S. (2010) “Small Schools and Strong Communities: A Third Way of School Reform”, Teachers College, Columbia University.